

## 平成 25 年度日本体操学会公募研究プロジェクト報告書

## 研究題目

スナップスティック（ペットボトルのキャップと割り箸で作った手作り鳴子）の活用事例のひとつとして、食育の手具を用いた教材としての例を提案し、その有効性を検証する。

研究者氏名（所属）※代表者氏名の前に○をすること。代表者は報告者とする。

○藤巻裕昌（名古屋女子大学短期大学部※所属先変更） 安藤大師（津田学園幼稚園）  
大島林子（名古屋芸術大学） 小嶋信之（フリー） 神谷厚子（モダントレーニング研究会）  
川畑輝子（有限会社 UNICORN たべもの教室バッタクラブ） 佐々木弘子（モダントレーニング研究会） 澤井雅志（日本遊育研究所専任講師 他） 鈴木和子（フリー）  
瀬戸口清文（大妻女子大学 他） 早川ひろみ（三重大学教育学部附属幼稚園）  
藤田正美（富田林市民総合体育館） 松下典生（日本遊育研究所研究員 他） 屋上 真導

## 報告

本研究ではスナップスティック（日本遊育研究所考案）を、子どもの食育ツール（3つの食品群についての理解と、それらをバランスよく食べることの重要性認識を深めるためのツール）として活用する方法を考案・実践し、その有効性について、1)教材として有効か？ 2)子どもたちの理解度を測るツールとして有効か？の2点に着目して検証することを目的とした。

## 結果（または成果）

参加者は、幼児（2～5歳）親子5組、小学生8名（3年生2名、4年生4名、5年生2名）だった。2歳児（1名）のみ、最初の数回、スナップスティックを縦に振ってしまい、良い音が出にくかったが、だんだんとスナップが効くようになり、音とリズムを楽しむことができていた。その他の年齢の幼児、児童は、最初から問題なく使うことができ、特に高学年の児童は、音の大きさを競ったり、スナップスティックを手具にして踊りだしたりするなど、自由に楽しんでいた。また、色分けしたスナップスティックを使用することで、対象が食品群について理解度を可視化することができ、正しく回答しているか否かの判断が容易となった。スナップスティックは、他の食育ツールと組み合わせて使用することで、子どもたちがより楽しみながら3つの食品群について理解を深めるための教材として有効である可能性が示された。また、その理解度を確認するツールとしての有効性も示された。今後、より多くの子どもを対象に、さらなる検証を続けていきたい。

## 現場からの実践後のコメント

今回、実践する機会を設けていただいた坂戸児童センターの先生方からのご意見をいただいた。

- ・ 鳴子を多めに作って、遊具と一緒に置いておいたら、みんな喜んで使っていた。
- ・ 高学年になったら、3色の鳴子を全部持たせて、パネルの食品に該当する色を選んで振れるのではないかな？
- ・ 初めにパネルシアターの学習をしたことで、鳴子遊びもスムーズに進行したし、食品に対する理解も深まったと思う。

## 今後の予定

来年度、更に何度か実施し、対象年齢の検討を図る。